

イサキ釣りでも軽さは感度 NEWシーボーグ200J

●外房～南房のイサキでも小型電動リールが活躍する。当日のように食いの立つ時間に集中して釣るには、手際よく掛けていくにも空ピシを回収するにも手返しの早い小型電動リールは欠かせない。間もなく発売となる「シーボーグ200J」は軽さはもちろん、アルミジョグダイヤル、ロープロならでのパーミング性でワンハンドでの操作性が向上、イサキ釣りでも「軽さは感度」を実感できるはずだ。ほかにも様々な機能を備えており、イサキはもちろん、ライトゲーム全般からコマセダイ、タチウオなどに応用できる幅広い汎用性を持つ。

■SPEC =ギア比5.1、巻き取り長さ55cm、自重490g (DHIは485g)、最大ドラッグ力10kg、最大巻き上げ力28kg (スーパーリチウム使用時31kg)、糸巻き量PE1.5号450m、2号300m、メーカー希望本体価格81,000円。200J、200J-DH、200JL、200JL-DHの4アイテムあり。5月発売予定 (JLは6月発売予定)



▲良型の2尾掛けに感激

NEWライトゲームIC

●「強く、軽く、滑らかに」が特長の「ハイバードライブデザイン」搭載の小型軽量、カウンター付きの次世代ペイトリール。ATD、アラームなどの機能も満載。150に4アイテム、200に2アイテム。150DHは5月、150/200は6月発売予定

■SPEC =ギア比6.3、巻き取り長さ70cm、自重215～240g、糸巻き量PE2号200m (200は320m)、メーカー希望本体価格29,700～33,600円



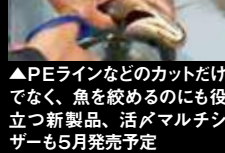
▲晴山さんは「ライトゲームIC150DH」を使用

シーパワー73

●アタリのキャッチ、誘い、コマセの振り出しなどに適した7:3調子。ネジレ防止のプレーディングX、Vグリップシートなども搭載した汎用性の高い仕上がり。全18アイテムを用意。発売中。

■SPEC /30-210の仕様=全長2.1m、自重140g、2本継ぎ、仕舞い寸法110cm、オモリ負荷20～80号、メーカー希望本体価格14,100円

活バマルチシザー



▲絞めるのに便利な先鋸形状、フッ素加工でさびにくく汚れにくい

ライトホルダーメタルα



▲強く、スタイリッシュになった新製品ライトホルダーメタルαを使用

▲ワンハンドで操作できる軽量設計



▲序盤からパーフェクト連発

た2人もさっそく竿を曲げ、福田さんは30センチ近い良型、晴山さんは25センチ前後のパーフェクトと上々の滑り出し。いつもは手巻きリールを使うという福田さんは、「久しぶりの電動、使ってみたかった新製品です。想像以上の軽さはワンハンドでの操作も楽らく、ジョグ利用の手返しでは手巻きを上回るでしょう。見やすくなった液晶力ワウンターもタナ取りに重宝します」と解説。追い食いさせるたびに曲がり込んでいくスリルゲームとのマッチングは見ているだけで楽しそう。一方の晴山さんは、「7:3調子の竿なのでコマセも振りやすいし、アタリもよく出ます。ほらほら、またいっぱい

「タナ取りは楽だし、3尾掛けでも巻き上げはとっても軽いです」と感激している。当日は群れの移動が速く、投入から30分もすると食いが渋くなるパターン。船長はこまめな移動を繰り返しながら、イサキの群れを追いかける。食いのよい時間帯に手返しよく釣るのがこの日の攻略の決め手。こうなると、福田さんの電動釣法が冴えわたる。リールの軽さと操作性を生かし、「どのハリに食ったかまで追い食いのさせ方も変わってきます。これにはタックルの感度があればこそなんです」

ベテランらしい言葉に晴山さんもうなずきながら、負けじとしっかりと数を重ねていく。雨とウネりに翻弄されつつも、船上は乗船者の熱気でムンムン。福田さん始め、数人が定数(50尾)に達したところで11時過ぎ、大満足の納竿を迎えた。

動画連動!



★当日の動画はダイワ「船最前線」よりご覧になれます。

外房大原、これからの注目魚イサキ 今期も安定の釣れっぷり!!

★今期も大原沖のイサキは安泰。2人そろって釣りまくった



福田豊起、晴山由梨 「軽さは感度」で快適に

THE FRONT OF OFF SHORE FISHING vol.73

イサキ最前線

at 外房大原港出船

★福田さんはベテランらしくシーボーグ200J-Lとリーディングスリルゲームの組み合わせ



▲シーボーグ200Jは左右巻き、シングルとダブルハンドルで計4アイテム
▶狙いどおりのパーフェクト、しかも良型ぞろい
◀ポイントによっては30センチ級がそろった

●外房大原港出船のイサキが今シーズンも4月からスタートした。初期は水温も天候も不安定、釣果はイサキの機嫌次第となる場合が多い。イサキは福田豊起、晴山由梨の両氏とも今期初挑戦だったが、最新タックルを持参しているせいか、不安な素振りには微塵も感じられなかった。



当日はナギの予報が大きく外れ、強い北東風に加えて雨も降り出す荒天日だった。出船前、福田さん、晴山さんも空を見上げては心配そうな表情だったが、いざ船に乗り込むと一転、仲よく釣り談議をしながらタックルセットに勤しむのだった。2人ともこれからのイサキ釣りにふさわしい最新タックルを用意していた。福田さんは「ニューシーボーグ200J-L」に「リーディングスリルゲーム73MH-195」のコンビ。最新小型電動にハイエンドなゲームロッドというベテラン好みの組み合わせだ。晴山さんはカウンター付きの小型両軸リール「ライトゲームIC150DH」に「シーパワー7330-210」というベテランから初心者まで幅広く使え、ほかの釣りへの汎用性も高い組み合わせだ。乗船したのは外房大原港の春日丸。イサキ乗合には9名の釣り客が集まり、4時半に港を離れた。ゆっくりと船を進めて、着いた先は大原沖水深40メートル前後のポイント。さっそく「タナ33～35メートルでやってください」という合図で釣り開始となった。1投目から船内各所でアタリ始める。遅れて投入し